
魔法のカガミにお願い(承二)

神崎颯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法のカガミにお願い（承二）

【Nコード】

N1196C

【作者名】

神崎颯

【あらすじ】

あたしの通う学校の旧校舎に、古びた鏡がある。普通の鏡なんかじゃない。『魔法の鏡』って呼ばれてる。だってね、深夜12時にその鏡に姿を映すと……。――。

(前書き)

グループ小説の第十四弾『起承転結小説』です。この小説は起、承、転、結でパートをに振り分けて違う作者が物語を書いていきます。

(起) ↓叶さん (承一) ↓春野さん (承二) ↓神崎颯 (転一)
↓f i n oさん (転二) ↓伊勢さん (結) ↓よぞさん の形に
なっています。どうぞご覧ください。

あたしは今現実のものとは思えない、少しファンタジックな世界にいる。

運命の人が映る魔法の鏡にその鏡の精霊。

なんともまあ非現実的で笑えて来ちゃうでしょ？

でも笑ってられないの。

「鏡？」

「はい、鏡ならなんでもいいので」

あたしが壊してしまった鏡……もちろんわざとではないのだけれど、そのせいでこの加賀見誠と名のる鏡の精霊は住処を失ってしまったらしい。

それでなんでも鏡ならなんでもいいからそこに住まわせてくれ、とのこと。別に鏡の中じゃなくてもいいじゃない。そんなに人間らしいんだし。

とりあえずあたしはポケットを漁ってみた。夜食にと買ったおかしのレストランが入っている。あ、ポッキー買い忘れてちゃってる。

「……鏡ありました？」

「い、今探してるわよ！」

全く、そう急かさないでよね。

反対側のポケットには……あ、一応あった。百均で買った手鏡だから小さいけど、どんな鏡でも良いって言ったわよね？

「はいこれ」

あたしは手鏡を差し出した。

しかし加賀見は首を捻って唸っている。

「……これじゃダメなの？」

「いや、問題はないんですが……狭いなあと思ひまして」

「黙って入れ！」

あたしは手鏡で加賀見をぶっ叩いた。

すると、手鏡の中に加賀見が吸い込まれていった。ああ、ファンタジック。

「とりあえずありがとうございます」

手鏡から声だけが聞こえる。なかなかキレイな声だ。

「ところで、あんたに聞きたいことがあるのよ」

「なんですか？」

「この鏡は12時に見ると運命の人を映し出す、って噂があったの」

それを信じてあたしは見に来たの。そして運命の人かは定かじゃないけど確かに鏡にはいるはずもない男の人の姿が映った。しかもそれはあたしが気になっている人たちばかりだった。そりゃ気になるじゃないの。

すると加賀見が鏡から出てきた。サダ○みたいで少し気持ち悪い。

「私はね、いつも同じものばかり映し出してたんですよ」

「え？」

加賀見は神妙な顔つきになった。険しい顔は結構カッコイいなあ。

「いつも自分の前にあるものしか映さなかったから、たまには別ものを映してみようって思ひましてね」

「それで運命の人が？」

「まあそんなところです」

まだもう少しありそうな気がしたがとりあえず今は後回し。

「じゃあさっきの3人はあたしの運命の人なの？」

本題はこれだ。

これのためにこんな夜遅くに女が一人で怖い旧校舎に出向いたのだ。

「なんのことですか？」

「え？」

「私、1人しか映してませんよ？」

「ええ〜！」

そんなバカなはずはない！

確かにあたしはあの3人を見た。

……一体どういうことなの？

（後書き）

如何だったでしょうか？

正直かなり不穏な感じだと思いますが、お許しください。

さあてじゃあ f i n o さん！頑張ってください！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1196c/>

魔法のカガミにお願い(承二)

2010年10月24日01時57分発行